

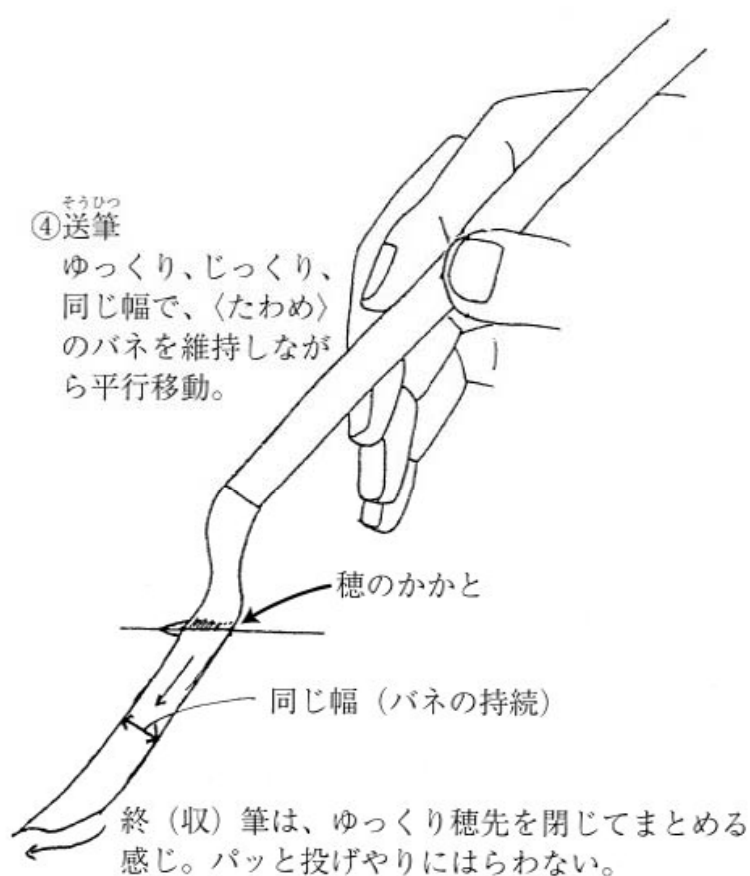
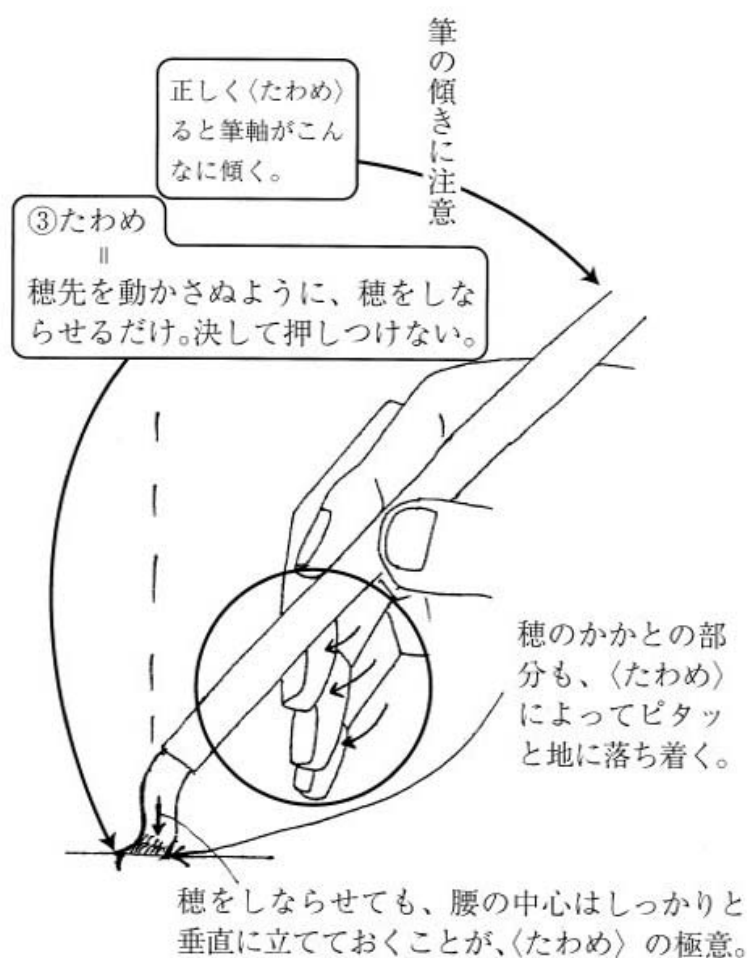


書のメソッド

用筆法の科学——甲骨文から王羲之まで——

加藤豊伋

《本の一部をご紹介します》



『書のメソッド——用筆法の科学——甲骨文から王羲之まで』 加藤豊伋

私が過去三十三年間大学で教えた成果に基づいたものです。教材篇を習うにつれ、きっと何度もDVDを見ることになるでしょう。バレエダンサーのように、この「書のメソッド」に従って日々レッスンを続けられることを願っております。（豊伋）

用筆法（筆遣い）を科学的に解明した日本初の指南書。解説がわかりやすいだけでなく、DVDも付いて1,500円という価格設定で丸善仙台アエル店他にて販売中。
お問合せは丸善自費出版担当 石森まで 022-264-0151

加藤豊伋先生の条幅部参考手本

①麗日發光華（浩然）



②千峰鳥路含梅雨 五月蟬聲送麦秋（季嘉祐）

千峰の鳥路は梅雨を含み 五月の蟬の声は麦秋を送る



加藤豊伋先生による

書をめぐっての対話（一）

ホー・ジン

1. 先生、先生は最近、「書弟子」という事をおっしゃってますが、「書弟子」って何なのですか。
- 書道の神様の精神を探索し、学び、伝承していく者のことじゃよ。
2. えっ、「書道の神様」なんているんですか。
- 書の古典の中に隠れておるのじゃ。
3. 隠れているものをどうやって見つければいいのですか。
- もちろん、「臨書」しかないじゃろうの。

4. でも、「書の古典」といってもいっぱいあるじゃないですか。いったい何を臨書すれば良いのですか。

○一生、臨書し続けてもいつも新しい発見が得られるもの、とでも言ったらよいかの。

5. そうおっしゃられても全く見当が付きませんが。

○うむ。修行中のお前には無理がないかもしれんのう。

6. そうですよ、先生。是非何を臨書すべきか教えて下さい。

○わしなら、王羲之のものを推すがの。

7. それはどうしてですか。

○王羲之は中国書道史上の革命児だからじゃ。

8. えっ、「書道の革命児」と言ったら、むしろ、顔真卿じゃないですか。

○うむ。確かに王羲之の「古法」に対して「新法（顔法）」を実践したのが顔真卿だといわれているようじゃが、彼のねらいはもっと外の事にあつたようなのじゃ。

9. えっ、外の事ですか。

○うむ。わしも、藤枝晃氏の「楷書の生態」（『日本語の世界』一九八一、中央公論社刊所収）を読んで初めて知った事なのじゃ。藤枝氏によると、正体化運動の一環として「顔法」を考えるべきだというのじゃ。

10. それはどういうことですか。

○うむ。中国では唐の時代になると（八世紀後半）、それまで流布していた「伝統的標準書体」としての国定楷書には、文字学上正しくないものが多く含まれているので、正しい字体にもどすべきだという正体化運動が起こったのじゃ。こうした中、顔真卿は、伯父さんに当たる顔師古（？～七一四）の著した『千禄字書』を石に刻んで石碑とし、役所の庭に立て、乱れた字体を正さんということで、あえて顔法によって、伝統的な楷書体と異なった字体で書いたのだ、というのじゃ。わしも、顔法は用筆法上、王羲之の用筆法を変革したものというよりはむしろ遵守したものじゃないかと考えておったのじゃが、藤枝氏の説明で妙に納得してしまったのじゃ。

11. 顔法については先生に一步譲るとしても、王羲之が革命児というのは納得できません。是非説明して下さい（つづく）。